

ふじさわ・くみ 大学卒業後、国内外の投信運用会社を経て日本初の投信評価会社を起業。'00年ソフィアバンク副代表。法政大学大学院客員教授、各種公職も兼務。金融リテラシー研究所特別研究員。

藤沢久美 金融リテラシー検定

第8回 得する人のおカネ観



撮影／平尾敦子

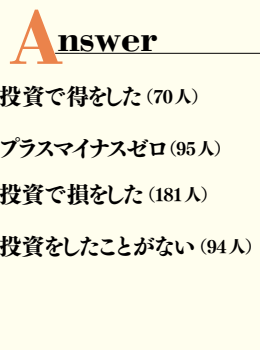
投資に関する仕事を通じて、やはり、投資に向く性格と向かない性格があるのではないかと思うようになりまして。知識としてリスクを取ることを意味を理解することも重要ですが、それを感覚的にも許容できるかどうかは投資をする上で極めて重要です。

さて、今回はそんな性格の特徴にも通じる調査です。ことわざや慣用句に関する問いでは、得をした人も損をした人も、共通して、「二銭を笑うものは、一銭に泣く」を選んだ方が多かったです。特徴的なのは損をした人の中で「自分が働くだけでなく、おカネにも働いてもらう」を選んだ人の割合が低いことです。おカネに効果的に働いてもらうことに対する思いが相対的に低いといえそうです。また、友人が株式投資で100万円の利益を得た場合という問いでは、まさに性格的特徴が出たと

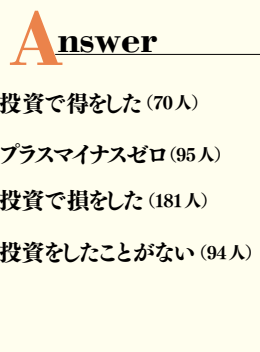
いえるのではないのでしょうか。損をした人の場合、「うらやましい」と思う人が圧倒的に多い一方で、「アドバイスをしてほしい」という意見が相対的に少なく、かつ「自分には無理」という人の割合が相対的に高くなっています。損をしたからという理由もあるかもしれませんが、自分の可能性に対する自信の低さがあるようです。また、アドバイスを求める人が相対的に少ないのも、自信の無さが理由かもしれません。逆に、得をした人はアドバイスをしてほしいという割合も高く、ヒントを得てチャレンジしてみたいという前向きな気持ちが見えてきます。

投資はリスクを取ることで、慎重さも必要ですが、まずは自分に自信を持つことが重要です。そしてその自信を得るためには、他人の智恵を借りることも一つのきっかけかもしれません。

Question
おカネに関することわざや慣用句で、あなたの考えに最も近いものは？



Question
友人が株式投資で100万円の利益を上げました。あなたの感情で最も近いものは？



(出所) 金融リテラシー研究所 (<http://www.f-literacy.co.jp>)
「金融リテラシー調査」の調査期間：'10年8月、調査方法：インターネット調査、有効回収数：1320サンプル